



巻頭言

情報処理学の情報処理

落合 進*

本学会が発足して 14 年を経た今日まで、コンピュータはハードウェア・ソフトウェア両面にわたる著しい性能面の向上をもとに幅広い利用面の発展を遂げ、わが国の学術、産業、経済など各方面に着実に根を下しつつあることは真に喜ばしいことである。もちろんこの発展は情報処理の教育・研究・開発・利用各分野の関係者の努力と協調のたまものであるが、これらの関係各位を会員とする当学会の果たしたまた果すべき役割は極めて重大であるといわねばならない。しかしながら、情報処理の分野では発展が極めて急であったため関係者の情報交換がこれで十分とはいえず、七千名を越える中規模学会に成長した当学会としても、研究発表の場としてはもちろんであるが、また知識を吸収したい人の啓蒙の場として、さらに各分野の人々の意見交換の場としても一層意義あらしめたいと願うものである。

昨今では駅から駅までの輸送では利用者の満足は得られなくなっている。たとえば貨物輸送では前後の小運送まで含めた戸口から戸口への輸送需要を満たすことが必要となるからである。さらには産業界の生産や販売のプロセスと関連をもたせ倉庫などとともに物流の一環として扱えねばならなくなろう。通信の分野においても技術そのものは送信機から受信機までの技術に重点がおかれ、ビットのもつ内容、意義に係わりなく正確に伝えることを追及して来たとし、コンピュータの分野でもインプットからアウトプットまでの処理に重点をおいて汎用性を追及して来たとするが、これらの技術を真に利用する立場の人は各ビットにどのような意味をもたせその情報を基にいかなるアクションをとって目標を達成するかを基本にしている。すなわち情報の伝達、処理を仕事そのものの制御の一環として考えているのである。情報化が進むと、大小様々な方面にわたってますますユーザオリエンテッドなシステムとして取組む必要が生ずるし、またそうすることによって情報処理の技術が生き生きと社会に浸透し

定着し、それがまた学問的発展を促すものと思われる。

昔、電気洗濯機や電気掃除機が出始めた頃、極めて使い難いものを買った経験がある。洗うことを追及する余りしぼることの大変さを忘れてしぼり機のない洗濯機、吸圧力を強調する余り車も無く引っぱると倒れてしまう掃除機など、笑えない事実を体験した。しかし利用者の使い勝手が素早くフィードバックされ、間もなく使い易いものが市場を競い始め、いわゆる家電時代を迎えた。

コンピュータ利用者にとって、たとえばハードウェア的に速いコンピュータも必要であるがそればかりが能でないことは言を俟たない。各方面にわたって利用している人達の使用上の経験が真に理解されフィードバックされるのは家電のようにはいかないらしい。

絵画は画家と観賞者の間で芸術が成り立つが、音楽では作曲家と聴き手の他に演奏者の共鳴が加わらないと芸術が成り立たない。コンピュータの場合も利用技術がからむから一般の製品のように作ったものをそのまま使うわけにいかず、この点がフィードバックをむづかしくしているかも知れないが、コンピュータを製作する企業でもそれを使う企業でもコンピュータに対する認識の違いから上下で意志疎通を欠き、またお互いの理解が不足していることも多い。その上、用語は乱用され、標準化は不足して混乱に拍車をかけているのが実情ではなかろうか。

このような状態に対処するには広く情報処理関連各分野の人の情報交換を活発にし、一方では標準化のような地道な努力も続けていかねばなるまい。特に情報処理科学のように社会の各方面への影響力の大きい学問分野は広く世の中に浸透して行くことが結局学問の発展につながるものと思う。

万が一にも情報処理の分野が最も情報処理の下手な世界という皮肉な結果にならないよう、関連分野の協調のもと情報処理科学の一層の発展を期待したい。

(昭和 49 年 3 月 6 日受付)

* 本会常務理事、鉄道技術研究所システム研究室長